

## ロシア極東の観光振興へ向けて

ERINA調査研究部主任研究員 辻久子

本稿の目的は外国人、特に日本人のロシア極東観光を拡大するための提言をまとめることである。観光目的で多くの人々が国境を越えることには、旅を楽しむという一義的目的のほかに二つの副産物が見出される。まず、受入国が経済的に潤う。次に人の交流は相互理解を深め、イメージを高めるのに役立つ。日本政府の調査では、昨年、ワールドカップサッカー大会を機に来日した外国人の多くが、訪日後日本人に対するイメージを高めている。同様のことはロシアでも起こると考えられる。

本稿ではまずロシア・日本を含む北東アジアの旅行者の流動状況について概観する。次に日本の旅行業者へのインタビューに基づき、ロシア極東への観光事業拡大に何が必要であるかを探る

### 1. 北東アジアにおける国際旅行の現状

まず、北東アジアにおける国際旅行の現状を統計的に概観する。各国の入国統計から人の移動状況がわかる。なお、北朝鮮の統計は発表されていないため除く。統計的に入手できるのは国ベースの出入国管理によるものに限られるため、全国の統計に限られる。従って、極東とか中国東北部といった国の一部に関するものは存在しない。また、海外

旅行の目的としては、観光、商用、買物、留学、出稼ぎ、担ぎ屋などがあるが、統計上では厳密な区別は難しい。

北東アジア諸国の国際旅行には次のような特徴がある。

日本人は海外旅行に積極的である。特に北東アジアでは中国や韓国への旅行者が多い。2001年に延べ1,600万人が渡航した。特に日本から韓国・中国への旅行者が多くそれぞれ240万人訪れている。韓国が日本人に対してビザを免除していることが大きな要因。中国も2003年9月から日本人観光客にビザを免除し始めた。中国は万里の長城、紫禁城、桂林などの観光、韓国ではショッピング、エステなどが人気。また、両国とも食事に人気があり、近くて安い点が魅力となっている。

韓国人も中国や日本への旅行に積極的である。韓国人が日本へ観光に訪れる場合にビザが必要であるが取得条件などが緩和されている。また、韓国・中国、韓国・日本間には多数のフェリーが運航されており、安い移動手段となっている。

中国人の海外旅行は人口の割に極めて少ない(1%)。中国人が向かう先は香港、マカオ、タイなどが多く、北

東アジアへの旅行者は少ない（全体の12%）。海外旅行に関する規制と経済的制約が要因である。日本への団体観光旅行が認められているのは上海、北京、広州の住民に限られる。将来的には門戸が開かれるとみられる。海外へ向かう中国人の約7倍の外国人が中国を訪れる。その大部分（87%）は香港、マカオ、台湾などの華人である。

ロシア人の北東アジアへの旅行者は少ない。ロシアから海外へ旅行する人は1,800万人に上るが、CIS向けが多く（42%）、北東アジアへの旅行者は140万人程（8%）に過ぎない。その大半は中国向け（13.5万人）である。特に綏芬河や黒河で行われている国境貿易に携わる担ぎ屋が多いものと推測される。日本を訪れるのは3.5万人に過ぎない。

北東アジア諸国からロシアを訪れる旅行者は少ない。ロシアを訪れる外国人は2,100万人に達するが、やはりCISからが多く、北東アジアからの旅行者は3.6%に過ぎない。その内訳は、中国46万人（2.1%）、韓国12万人（0.5%）、日本7万人（0.3%）にすぎない。なぜ少ないかが問題である。2001年にロシアを訪問した外国人の内訳はCIS（67%）、フィンランド（6%）、リトアニア（5%）、ポーランド（4%）など欧州諸国が多い。ロシア極東に限れば状況は異なると思われるが統計的裏付けはない。

## 2. ロシア極東を観光目的で訪問する日本人の状況：

次に日本人のロシア訪問に焦点をあわせて論じる。ロシア極東を訪問する日本人観光客は2種類に分類できる。一般的観光客と特定の目的を持った旅行者である。

### （一般観光客）

一般観光客は、特にロシア極東に関心があるわけではないが、近いこともあって一度行ってみようとする人々である。多くは既に欧州（モスクワ方面を含む）、米国本土、ハワイ、アジア（中国、韓国を含む）などを既に訪れた経験があり、未知の地域としてロシア極東にも眼を向けようと考えている。殆どの場合、ロシア語ができないことなどからグループツアーに参加している。また、現状では熟年層、老人、男性が多く、若い女性の姿はあまり見られない。

一般観光客が期待するのは、欧州（サンクトペテルブルグなど）並の町並みと文化的楽しみ、5つ星ホテルの快適さ、韓国並の価格、日本人の口に合うロシア料理、豊富な土産物、そしてガイドブック片手に個人で街を歩きまわられる自由さである。

では実際にツアーに参加した一般観光客はどの程度満足しているだろうか。現実には満足度は極めて低いと言われている。具体的には次のような問題点が指摘されている。

- ・ 見るものが乏しい。感激を呼ぶような観光資源がない。同じロシアでもサンクトペテルブルグなどは美しい町並み、史跡、芸術などの観光資源で溢れているが極東は劣る。
- ・ ホテルの質とサービスが悪い。
- ・ 食事が口に合わない。日本で知られているロシア料理（ピロシキ、ボルシチ、キャビア）と違う。
- ・ 国内線航空路や鉄道が遅れてスケジュールが狂う。
- ・ 出入国のチェックが厳しい。
- ・ 旅費が高い。
- ・ 街を個人で歩けない。街路標識が日本語や英語になっていない。個人が安心して乗れるタクシーがなかった。安全性が心配。
- ・ 土産物が少ない。空港の免税店が不十分。

### （特定の目的を持った観光客）

現在主流となっているのはアウトドアー、エコツアー、ハイキング、釣り、狩猟、野生動物保護区訪問、文化交流、青少年交流、ホームビジット、墓参、など特定の目的を持って訪れる観光客である。

これらの旅行者は一般に満足度が高くリピーターになる場合もある。しかし人数が限られており、大幅な増加は望めない。

大幅な拡大には一般観光客の誘致が必要であろう。

## 3. 観光地としてのロシア極東の主要な問題点

次にロシア極東に一般的日本人観光客を誘致する上での問題点を整理する。

### （一般観光客誘致における問題点）

極東は楽しめる観光資源が乏しい。欧州諸国、サンクトペテルブルグやモスクワには、日本人好みの歴史的・文化的遺産（美術館、バレエ、コンサートなど）が豊かである。多くの都市では単に歴史的遺産を守るのではなく、老朽化や紛失した建物を新たに再建するなどの努力をしている。これに比べて、ハバロフスクやウラジオストクでは乏しい。一方、多数の日本人が訪れる韓国は買物市場、焼肉やエステといった若者向け楽しみがある。中国には万里の長城や故宮のような歴史的遺産や、桂林のような自然的観光資源が豊かである。極東ももっと観光資源を

整備する必要がある。

ホテルの質と量が不足している。既存のホテルは規模が小さく、極東への観光客は夏に集中するため、夏場はホテルが不足する。質的には五つ星クラスのもの少ない。日本のBSやCNNテレビが見られることは必要条件。最近の日本のホテルでは客室でパソコンが使い、インターネットも出来るようになって

いる。  
食事が口に合わない場合がある。一般的にロシア料理は美味しく、基本的には日本人に気に入られると思う。一般の日本人が望むロシア料理（ピロシキ、ボルシチ、ペリメニ、キャビア）などを用意すると喜ばれる。しかし、時には日本食も必要。

ロシア語を解さない一般の日本人が街を自由に歩くことが困難。欧州や米国に旅行した日本人は地図を片手に街を歩くのを楽しみにしているがロシア極東では難しい。問題点として、日本語の地図が用意されていない、日本のガイドブックが不十分、街路標識が日本語か英語になっていない、言葉の通じる流しのタクシーが無いことが挙げられる。また、個人旅行の日本人が使えるような空港から都心のホテルへの日本語（英語）が通じるシャトルバスが無い。  
高価格。日本から韓国へ旅行する場合と比較して、極東は30～40%割高である。3泊4日で比べると、韓国ツアーは6万～9万円。ハバロフスクだと9万～12万円程度。韓国の場合はオフシーズンや平日にはもっと安くなる。ロシア極東では、航空運賃、ホテル、通訳、トランスファーなどが高つく。航空運賃は独占が高価格の要因とされる。日本人も経済的不況の時代に価格に敏感になっていることを理解する必要あり。  
手続きが厄介。ビザが必要な上、出入国時のチェックが他の国に比べて厳しい。韓国は日本人観光客に対してビザを免除して以来、日本人の観光客が大幅に増加した。中国も9月から日本人に対してノービザにして、SARSの影響で落ち込んだ観光客の増加を目論む。既に欧米諸国や東南アジア諸国へは日本人はノービザ。現在ビザが必要なのはロシアとモンゴル程度。

#### （旅行代理店にとっての問題点）

日本で現地情報が把握できない。ロシア政府観光局が日本に設置されていない。他の多くの国が政府の公式観光局を日本に設置している。極東専門の政府

観光局を置くことも考えるべき。

日本人へのPRが不足。どうやってPRするか、幾つかの方法が考えられる。一般にパンフレットでは不十分で、より効果的なのは、旅行雑誌、レジャー雑誌で取り上げてもらうこと。女性をターゲットとするには、女性雑誌の利用が考えられる。TV番組で紹介してもらうのも効果的であろう。

国内交通機関（航空路、鉄道）が遅れることが多いため、乗り継ぎを前提としたスケジュールを組みにくい。一般に、日本人は鉄道が遅れないものと思っている。

コスト高になる。トランスファーや通訳経費がコストに上乗せされる。特定の土産物屋と提携するショッピングコミッション制度が無い。

契約にまつわるトラブルがある。ある日本の業者は、ヘリコプターのチャーター料金が現地で事前に契約した額以上請求された経験がある（1995年）。契約遵守の原則が守られてないと理解されている。

#### 4. 極東観光の将来性

こう見るとロシア極東に観光地としての資格が無いように見えるが、実は大いなる可能性を持っている。不足とされている観光資源も開発の余地は大きい。ここでは可能性について述べる。

自然を最大限利用：モスクワに無くて極東にあるのが自然美である。例えば、カムチャッカには温泉、火山といった資源がある。もし、日本との間に季節的であれ定期航空路が開設され、宿泊施設が整備されれば、リゾート・避暑地として日本人観光客を集めることが出来るかも知れない。バイカル湖のあるイルクーツクも独特の町並みを持ち、避暑地として魅力的になりうる。リゾートとして売り出すには立派なホテルと行き届いたサービスが必要である。また、航空運賃が安く便利なことも避暑地の必要条件である。

文化的観光資源を整備：モスクワやサンクトペテルブルグでハイライトとなっている美術館、バレエ、オペラ、コンサート、サーカスなどを極東でも再現できないものだろうか。例えば、日本人が必ず訪れるエルミタージュ美術館は所蔵品が膨大で、地下の蔵に多くが眠っていると聞く。もったいない話である。眠っている作品を極東に廻して、エルミタージュ美術館極東分館でも作って展示したらどうだろうか。

**スポーツ交流：**スポーツ面でもロシアは魅力的な資源を持っている。例えば、アイスホッケー。日本ではプロチームが次々に廃止され、チーム数が減ってリーグは存亡の危機にあると聞く。韓国のチームを含めた国際リーグを作ることになったようだが、ここにロシアも加盟できれば3カ国間でサポーターが移動しスポーツ交流が深まる。

**歴史的観光資源：**ロシア極東には欧風の町並みや近代史の中で残された資源がある。例えば、サハリンには日本統治下の建物が残っており、保存状態が改善されれば史跡になりうる。また、ハバロフスクやイルクーツクには日本人抑留者墓地や抑留者が建設した建物がある。日本人の関心呼べるかもしれない。

**健全な遊びの施設：**遊びの施設は常に観光地となりうる。日本のディズニーランドは台湾や中国の観光客が押し寄せている。多くの日本人がラスベガスを訪ねていることを考えれば、カジノが受け入れられるかもしれない。最近ラスベガスも家族で遊びに行け、国際会議や国際展示会が開かれる街になっている。

**国際会議などイベントの誘致：**新潟は今年、国際会議施設「朱鷺メッセ」を建設し、各種国内・国際会議を誘致している。ロシア極東でも国際会議場やホテルが整備されるならば、各種会議の誘致が可能となる。同様に、国際スポーツ大会の誘致も考えられる。

**組み合わせて：**極東のように小規模な訪問地が幾つかある場合は、幾つか組み合わせるようにルートを設定することも考えられる。例えば、ハバロフスクとカムチャッカ、イルクーツクとモスクワといったルートも考えられよう。さらに、空路と鉄道や、日本からウラジオストクへのクルーズを組み合わせることも考えられよう。その場合、設備面でもハイレベルのものが望まれる。

## 5. ロシア側へのアドバイス

最後にロシア側へのアドバイス・要望を述べる。

ロシア政府観光局を日本に設置し、航空会社などと一緒にPR活動を強化する。それにより、日本の旅行会社も情報が得やすくなり、予約も取りやすくなる。東京にロシア全体、新潟に極東担当部局を置くことが望まれる。

観光客が自由に歩ける都市づくりが必要。街路標識を日本語や英語で整備する。空港から各ホテルへのシャトルバスを英語・日本語で。信頼できるタクシーを流す。安全な町造りが必要。

ビザ、出入国を簡素化。ライバルの韓国、中国は日本人観光客に対してノービザである。

ホテルの整備・近代化。国際基準（星で示す）を適用。私自身、昨年十数年ぶりにリガを訪れたが、ソ連時代のインツーリストホテルが豪華なLatvija Hotel（五つ星）に生まれ変わっていて驚いた。

観光資源の開発に官民を上げて取り組む必要がある。文化的催物（バレエ、コンサート、美術展など）、歴史的資源などはポテンシャルが高い。ハバロフスクやウラジオストクの伝統的ヨーロッパ風町並みもさらに磨き上げ、老朽化箇所や紛失部分を伝統的様式で復元すると魅力を増す。ヨーロッパの古い街、例えばベルギーのブルージュなどでは、概観は中世風、内装は現代的といった建築物を整備し、伝統美と快適さを両立させている。また、ドイツ南部のローテンベルグなどでは中世風城壁や建築物を再建し、観光名所となっている。同様の努力はサンクトペテルブルグでもなされている。意図的に伝統的なものを再現する努力が求められる。

コストダウンの努力：航空運賃、ホテルなどで韓国や中国に負けないように関係者の努力が求められる。航空路における独占の排除が望ましい。

空港の免税店の整備は外貨獲得の機会である。また、珍しい土産物や美しい絵葉書を用意することなども観光客の印象をよくする。